

2023 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	銀行の業績予想の特性と期待マネジメント
キーワード	①銀行、②業績予想、③利益調整行動

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏 名	フカヤ ユウスケ 深谷 優介
配付時の所属先・職位等 (令和5年4月1日現在)	桜美林大学 ビジネスマネジメント学群 助教
現在の所属先・職位等	桜美林大学 ビジネスマネジメント学群 助教
プロフィール	立命館大学経営学部卒業後、株式会社三井住友銀行に就職。その後、神戸大学大学院経営学研究科に進学し、修士課程、博士課程を修了、博士号を取得。桜美林大学ビジネスマネジメント学群に着任し、現在に至る。銀行での勤務経験から、銀行の会計情報に関する領域に関心を持ち研究を行っている。

1. 研究の概要

銀行の会計情報を用いて、銀行業における経営者の業績予想の特性と期待マネジメントの実体を明らかにする。日本の開示制度の特徴として、ほとんどの上場企業が業績予想を開示していることが挙げられる。諸外国にはみられない制度であり、日本企業の業績予想に関する研究は注目されている。期待マネジメントとは、期初に開示した業績予想が達成できないと見込まれる場合、予想を引き下げ、最終的に予想を達成できるように操作することをいう。規制当局は銀行が将来安定的に収益を計上できるか監視を強めている。銀行の業績予想に関する研究は、規制当局はじめ投資家等にとっても重要な関心事であり、学術的貢献に加え、社会に与える影響も大きい。

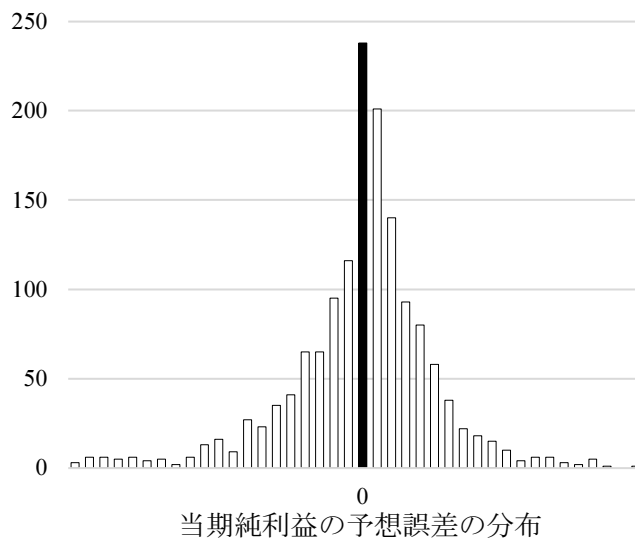
2. 研究の動機、目的

本研究の目的は銀行における経営者の業績予想の特性と期待マネジメントの実態を明らかにすることである。日本の開示制度の特徴として、ほとんどの上場企業が業績予想を開示していることが挙げられる。諸外国では、経営者の業績予想は自発的開示項目であることから、業績が好調となることが見込まれる場合に業績予想を開示し、不調であると見込まれる場合には開示しないといったバイアスが生じており、業績予想のデータを使用した実証分析の弊害となっている。日本企業の業績予想に関するデータセッティングは貴重であり、特に日本の銀行の業績予想開示率は100%である。また、期待マネジメントとは経営者が公表する業績予想を調整することをいう。例えば、期初に開示した業績予想が達成できないと見込まれる場合、予想を引き下げ、最終的に予想を達成できるように操作することが考えられる。日本の業績予想の会計数値を使った実証分析は世界的にみても研究意義が大きく、期待マネジメントの研究は今後発展が見込まれる領域であることが本研究を行う動機となっている。

3. 研究の結果

銀行の業績予想の特性の分析について、業績予想の開示率、予想誤差、予想の正確度の複数の分析視角から基礎的調査を行った。主要な発見事項として、1つ目は、銀行の業績予想の達成率が非常に高いことが明らかになった。年別でみると 90%以上の銀行が予想を達成している年もあり、一般事業会社と比較しても予想達成率は非常に高いことを発見した。2つ目に、銀行の業績予想の正確度は高く、一般事業会社と比較して銀行の利益の実績値と期初予想の乖離は、平均的に 10 分の 1 以下であり、銀行は非常に正確な業績予想をしていることを明らかにした。

加えて、予想誤差の分布を用いて銀行が業績予想を達成するために利益調整行動をとっているか検証した。右の図は、当期純利益の予想誤差をヒストグラムで示したものである。ゼロをわずかに超える（つまり予想をわずかに超えている）階級を黒塗りにしている。ゼロをわずかに下回る階級より、ゼロをわずかに上回る階級の観測値数が極端に多いことが視覚的にわかる。統計的にもヒストグラムは有意に歪んでいることが明らかになった。この結果から、銀行は業績予想を達成するために利益を増加させるように利益調整行動をとっている可能性があることを示した。



現在の研究の経過として、期初予想のみならず、期中の業績予想修正に関するデータを取得し、データの整備が完了している。このデータを用いて、利益実績値の調整行動だけではなく、予想値の裁量的調整行動に関しても検証を進めていく。

4. 研究者としてのこれからの展望

銀行の会計情報に関する実証研究は、会計領域の実証研究の中ではかなり限定されています。理由としては、銀行の事業が一般事業会社と異なり特殊であること、財務諸表の構成が一般事業会社とかなり相違することが挙げられ、アーカイバル研究から除外されることが多いからです。ただ、日本の経済社会において銀行の重要性はかなり高いと認識しており、引き続き銀行の会計情報に焦点を当てた研究を続け、銀行の会計情報の利用者に有益な検証結果を提供していきたいと考えています。また、銀行の会計情報の研究者として広く認知され、銀行の会計情報に関しては私にきけばわかるといった存在になることが目標です。

5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

この度は、本研究課題にご支援くださり誠にありがとうございました。研究者としてはまだ若手で実績も少ない中、研究の発展の可能性にご理解いただき、支援いただいたこと自体が大変励みになりました。本助成金のおかげで、研究環境の整備、データの取得等を行うことができた研究を推し進めることができました。銀行の会計情報はまだまだブラックボックスな面がありますが、一端を明らかにできたと考えております。本研究で得られた知見を社会に還元できるよう、また銀行の会計情報に関する研究が少しでも前進できるよう、引き続き尽力していく所存です。